5グループ

安心安全

母と面談。
どういうふうな見での
表出があったか
確認するため

こどもと面談。
（何分かの方法で
話を聞く）
本当はどう思っているか
を知るため

工作の中でスキなことを聞く
決められた手順がスキなのか、
自由工作がスキなのか聞くことで
活動の幅がひろがる

保護者から
長期的な視点、さいは
どんな考えられればよか
聞く。
理由。成長発達

行きたくない理由を聞く
何かがあると、行くための
環境（場面、場所など）
をさぐる。

行きたくない理由を聞く
なぜ行きたくないのかが
わからないため

保護者はどう思っているか
ヒアリングする
どう考えるのがベストなのか
方針を決める。

個別対応教の先生と
情報共有している。
本人・母親・
それぞれ、個別に
話をしてみる（ヒアリング）
→実際の中で確認していく
未来が分る会

しばらく本人とかかわる
体験者と受けとめ、とり
しつつ、本人の本心を聞いたり
家庭の様子をきいたり
好きなことをさがしてみることを

こどもと面談
どうすれば学校
できるかの方法を
考えるため

本人をまきこみしつつ
やりたい事がやれるように、
友達関係をとって
本人がやれる事や会を
計画をさぐる
会ができた。学校にまいにち
と

児童と話をする
子どもの意見を聞いたことがない
不登校はないが、
たのしい学校ないが、
その中で何を
どうしたいか

児童から「行きたくない」
理由を聞く
理由
学校が出て楽しみも
あるので
原因を知る。

成長発達の保証

本人と学校等で
情報共有。
話合。工作の時間だけ
来られる。
通い
ハードルが
高かった。可能性は
ハードルを下げる

放課後 先生と会いたい
こども提案
別現の少ない環境で
行けるかどうかを確認
し、可能性をさぐる

支援級の先生と
クラスメイトにきく
ボルを様子でやった。
どう思っていたか。

学校の先生と話す
環境調整の方法
模索するため

学校に行けたことを
ほめる！共感する
保護者、子ども

工夫
今日はこうがんばっている(ほめる)
可能性をあらわす
あらわしてよく、本人をほめる
その上で、待つ者、
支えつつ待つ者、
関係を作りつつ
あの本人の学校を待つ者
様子を観察できるとき

自己実現を支える

人間的つながりを保証